

その足をとめて、 この森で会おう。

脳裏に焼きついて、はなれない景色がある。
胸を灯し続ける、あたたかな思い出がある。
忘れられない、笑顔がある。

決して派手ではないけれど
日本の各地に心やすらぐ美しい風景がある。
三国湊はそんな町。

この町の夕日は格別だ。
夜の帳が静かに下りて、森が海に溶け出す頃
ほてった体を優しい風が撫でていく。

日中のハードワークが嘘のよう。
心地よい疲労感に体が笑う。
横でうなづく友人がいる。

ボランティアで始めた森づくり。
賑やかに楽しんだり、がむしゃらに走り回ったり。
季節を愛でるよりも、汗を流す方が多かったけれど
愛しい景観が台無しになっていくのを見て
じっとしてはいらなかった。

できることから始めよう。動き出した2007年。
ナホトカ号重油流出事故から10年を迎えた時だった。
バケツリレーに連なった地域の人とボランティア
よみがえった日本海に今日も夕日が沈んでいる。

三国に初めて来たという友人も
初めて見るのに、なぜだか感じる懐かしさ。
まるでそれは、心のふるさと。

町の小路が森へと続き、海に注ぎこむ景色を
この町の未来に届けたい。
その思いは今、物語となって紡ぎ出されている。

